

第 14 回鴨叡会・生命分子化学科セミナー報告書

日時：2013 年 8 月 5 日（水） 午前 10 時 30 分から

場所：京都府立大学 図書館視聴覚室

講師：Prof. W. Crawford Elliott (Dept. Geoscience, Georgia State University, USA)

「Long Term Selective Retention of Natural Cs by Coastal Plain Soils, Savannah River Site, South Carolina. (自然風化に伴う土壌 Cs の局在化ーサバンナリバーサイト核施設の土壌を事例としてー)」

参加者：学部学生、大学院生、教員

参加者総数：約 15 名

Elliott 博士は、粘土鉱物の研究を専門とする地質学者であり、近年土壌中における粘土鉱物の放射性セシウム吸着媒体としての機能に着目し、精力的に研究を行っている。

本講演では土壌中にもともと存在している安定なセシウムが、選択的吸着メカニズムのはたらきにより粘土鉱物の一種である「雲母」に局在化している可能性を指摘するとともに、その仮説をもつに至ったこれまでの研究経緯や今後の研究発展の方向性について、平易な英語でわかりやすくご紹介いただいた。なお同セミナーは午後 11 時 45 分に終了し、その後も学生から活発な質問が Elliott 博士に向けられた。

